



無病息災などを願い、牛王加持印を押ししてもらおう

参拝者

息災祈り「鬼やらい」 天童・若松寺

悪い鬼を集めてざんげさせ、良い鬼に改心させるという伝統行事「鬼やらい」が20日、天童市の若松寺で行われた。

若松寺に奈良時代から伝わる行事で毎年、旧暦1月7日に行われる。一般的に鬼は節分の豆まきで追い払われる存在だが、鬼を招いて観音菩薩(ぼんぎょ)の前で改心させる。「貪欲(どんよく)、怒り、愚痴といった心の中にいる鬼を改心させる意味もある」(氏家栄修住職)という。

僧侶7人が読経し、氏家住職が先端に円すい形の「牛王(ごおう)加持印」を挟んだクルミの木で四方を突き、鬼を改心させる儀式を行った。約200人の参拝者は額や腰などに牛王加持印を押ししてもらい、無病息災や家内安全を祈願した。

寒河江市の児玉憲司さん(63)は「最近、息子が結婚したので、家族が健康で円満に暮らせるように祈りました」と話した。